荻窪病院 地域連携ニュース 02月

腎尿管全摘膀胱部分切除、膀胱全摘も施行可能

積極的な「腹腔鏡下手術」で良好な術後経過に

●泌尿器科　医員
松島 将史 まつしま　まさし
2005 年 慶應義塾大学医学部 卒業
・医学博士
・日本泌尿器科学会専門医・指導医
・日本性機能学会専門医
・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医　他

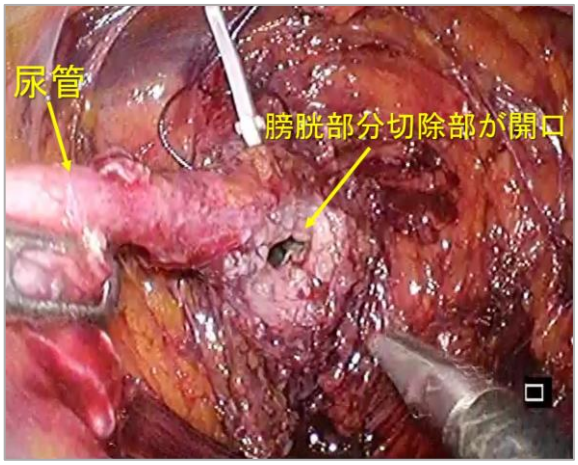
みなさま、荻窪病院　泌尿器科医員の松島　将史と申します。今回は、当院で施行している主な泌尿器腹腔鏡下手術についてご紹介させていただきます。

腎癌に対する標準治療である腹腔鏡下根治的腎摘除術は泌尿器腹腔鏡下手術の中でも歴史が古く、術式として確立しているため当院においても私が赴任しました 2014 年以前より施行しております。

当科では腹腔鏡下手術施行の際には慶應義塾大学病院泌尿器科の腹腔鏡技術認定医を招聘しており、私を含めて２名の泌尿器腹腔鏡技術認定医のもとで手術進行を制御することで、できる限り安全な手術となるよう心がけております。

2022 年 2 月現在において、開腹手術に移行した症例はありません。また、腹部手術既往があり、腹腔内の癒着が予想される症例では後腹膜アプローチで行うなどの対応をしております。

従来は腹腔鏡・開腹併用の「腎尿管全摘膀胱部分切除」も当院は、腹腔鏡下のみで施行可能



①膀胱尿管移行部の切断操作。吊り糸で牽引し膀胱内腔を確認しやすくしている

②膀胱部分切除部の縫合操作

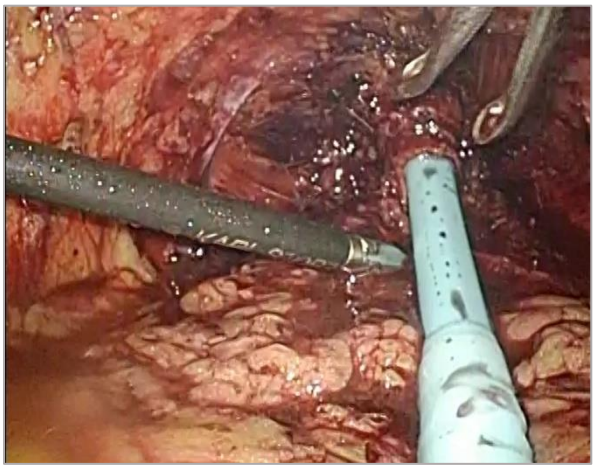
腎盂癌・尿管癌（上部尿路上皮癌）に対する腎尿管全摘・膀胱部分切除術に関して、従来は腎臓摘出部分を腹腔鏡下で行い、尿管の剥離・膀胱部分切除部は下腹部斜切開の開腹手術で行う腹腔鏡併用手術が施行されておりました。当院では、より低侵襲かつ安全な治療として膀胱部分切除部も含めて全て腹腔鏡下で行う腹腔鏡下腎尿管全摘膀胱部分切除術を 2018 年より施行してい

ます。それにより出血量減少、術後疼痛の低減、手術時間の短縮(従来の 4~5 時間から 3~4 時間程度)が可能となっております。

「膀胱全摘術」も腹腔鏡下で出血量減少で、良好な予後に

筋層浸潤性膀胱癌に対する標準治療として膀胱全摘術(＋回腸導管などの尿路変更術)がありますが、腎摘除などと比較して腹腔鏡下手術は複雑な過程を必要とするため、現在でも多くの施設で開腹手術が施行されております。当院では 2019 年より腹腔鏡下膀胱全摘術を積極的に施行しており、開腹手術に比べ出血量の著明な改善によりほぼ無輸血での手術が可能となり、良好な術後経過を実感しております。

これら尿路上皮癌(膀胱癌、腎盂癌、尿管癌)の特徴的な症状として肉眼的血尿があります。超音波で腎臓に腫瘍があるような場合も、ぜひご相談・ご紹介ください。当科は中規模病院ならではの迅速さでもって、最適な治療を行えるよう、日々心がけております。



尿道切断し、内部のカテーテルを腹腔内に出したところ

毎週行っている泌尿器科カンファレンスの様子。全入院患者・手術患者の症例検討を行う。

2月15日 初期臨床研修医の症例発表会を開催いたしました

2 年目の風格さえ漂った落ち着きある発表を行った 3 名の初期臨床研修医たち

初期臨床研修医（2 年目 3 名、1 年目 4 名）による症例発表会を開催しました。現場で深い知見を得たそれぞれの症例に対し、各科医師からの多くの質問と論議、指導医からの助言などで、予定していた時間を超える、濃密で、研修医の 1 年の成長を十分に知る会となりました。

地域に根ざす急性期病院での勤務が彼らの将来の糧となるよう、今後も病院一体となっての教育を続けてまいります。変わらぬご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

左：研修管理委員長の大塚循環器内科医長　右：フロアからの質疑

ご紹介・ご相談は　荻窪病院 地域連携室　発行：2022 年 02 月
月～金 8：30～18：30　土 8：30～12：00　TEL 03-3399-0257　FAX 03-3399-0258　〒167-0035 東京都杉並区今川 3-1-24

Ogikubo Hospital Regional Cooperation NEWS 02